

テレワークとオフィスワーカーの生産性 —ワーカーのアイデア創出の観点から—

古川 靖 洋

目 次

- | | |
|--------------------------|---------|
| 1. はじめに | 4. 実証分析 |
| 2. コロナ禍とテレワーク | 5. 考察 |
| 3. テレワークとオフィスワーカーのアイデア創出 | 6. おわりに |

コロナ禍以降、日本企業におけるテレワークの導入率が上昇している。本稿では、ワーカーの生産性指標の一つである「アイデア創出度」に焦点を当て、テレワーク導入済みの企業と未導入企業でアイデア創出度に差があるかどうか、テレワーカーのアイデア創出に貢献する要因は何かについて分析した。分析結果より、テレワークを導入するに当たって、ワーカーのアイデア創出を促すためには、特別な施策を当初から考えるのではなく、基本的には以前から効果があると考えられている諸施策の実施が有効であることが確認できた。そして、テレワーク導入済み企業でワーカーのアイデア創出度を向上させるためには、より一層の権限委譲を進め、学習機会を充実させ、コミュニケーションの活性化を促す諸施策の実施が有効であるということも確認できた。

1. はじめに

2019年12月に中国武漢で初めて確認された新型コロナウイルス感染症は、2020年1月中旬には日本国内でも確認され、その後、世界中でパンデミックを引き起こすことになった。そのため多くの国では感染防止策として都市をロックダウンし、多くの人々がテレワークによって仕事をすることとなった。日本では強制的なロックダウン規制はなかったものの、政府がテレワークを推奨し

たこともあり、多くの企業が自宅からのテレワークを導入し、他国と同様、人々はテレワークにより業務を継続することになった。

日本において、政府は過去20年近くにわたってテレワークの導入を進めてきたのであるが、コロナ禍以前に多くの企業がテレワークの導入を進めていたとはいえない状況であった。その原因の一つは、テレワークの導入とオフィスワーカーの生産性の関連性がよく分からないからである。分からないからこそ、導入に躊躇してしまうのだ。



古川 靖洋 (ふるかわ やすひろ)

関西学院大学総合政策学部教授。1985年慶應義塾大学商学部卒業、1987年同大学大学院商学研究科修士課程修了。1992年同大学大学院博士後期課程修了。博士（商学）。2003年4月より現職。2006年4月より一般社団法人日本テレワーク協会アドバイザー。主な著書に、『テレワーク導入による生産性向上戦略』（千倉書房、2015年）がある。